

樋口貴広（著）

# 研究的思考法 —想いを伝える技術—

京 極 真  
 （吉備国際大学、作業療法士）



本書は「研究的思考法」を中軸に、ライティング法、研究法、プレゼンテーション法、論文執筆法等といったスキルを解説した良書である。研究的思考法とは、他者に伝わる形式で問いを立てて、調べて、考えて、伝える営為である。本書は、この営為を軸に、自他で考え方を共有する技術を解き、その重要性を分かち合える技術を学習できる内容になっている。

著者は気鋭の研究者としてご高名な樋口貴広先生である。樋口先生は首都大学東京で大学院生指導に当たられ、その経験から研究的思考法を学ぶ重要性に気づかれたという。大学院は単に研究の機会を提供するところではなく、大学院生の知的成長を促進する場である、というのである。その目的を達成するために、研究法だけでなく、研究的思考法を学ぶ機会を提供する必要がある、と著者は主張する。

かといって、本書の読者対象は大学院生に限らない。本書の導入で明記されている例を以下に示す通り、本書の読者対象は実に幅広い（v ページ）。

- ・文献の速読が苦手な方
  - ・初めて論文を投稿する方
  - ・学位論文に臨む学生諸氏
  - ・論文指導に苦勞されている先生
  - ・実習生のレポート指導などを担当される方等
- ここから、本書は知的成長に関

心のあるすべての人に開かれたかたちで書かれていることが理解できる。これは研究法ではなく、研究的思考法に軸足を置いた本書ならではのというべき守備範囲の広さであると思う。

本書で促進される主な知的成長は以下の通りである。つまり、読者は本書を読むことによって以下の技術を高めることができると期待される。

- ・思考法
- ・ライティング法
- ・研究法
- ・プレゼンテーション法
- ・論文執筆法等

思考法は冒頭で示した研究的思考法である。本書の主題にもあるように、研究的思考法は本書最大の特徴であり、本書を通して読者は他者に伝わる形式で問いを立てて、調べて、考えて、伝える営為を学ぶことができる。

研究的思考法を実質化するために、ライティング法へと読者を誘う。ライティング法とはパラグラフ・ライティングを意味する。パラグラフは、いわゆる通常の段落とは異なって、「主張・意見→理由・論拠→主張・意見の再提示」という明確な構造をもつ。パラグラフ・ライティングは、この構造を視점에議論を組み立てていくものであり、プレゼンテーション法、論文執筆法等にも転用できる、汎用性の高い技法である。パ

ラグラフ・ライティングは決して特殊なものではなく、むしろ欧米諸国では徹底的に習得するよう指導される技法の一つである。本書はそのエッセンスを余すところなく解説しており、それだけでも一読の価値がある内容になっている。

また、研究法は量的研究の基本を中心にわかりやすく解説している。特に因果推論は、とすると複雑な議論になりがちところだが、本書は初心者でも理解できるよう図を多用しつつ、わかりやすい表現で解説することに成功している。研究的思考法とパラグラフ・ライティングを身につけた後に、具体的な研究法を学ぶことによって、単なるハウツーを超えた科学的態度を養うことができる。そして、研究法によって明らかになった知見は、ライティング法、プレゼンテーション法、論文執筆法を有機的につなぐことによって、他者に想いを伝えるかたちへと開花することになる。

本書は幅広い読者を対象に、科学的な方法によって他者とわかり合うための技術を提供する内容であるといえる。評者は多くの方々に本書をオススメしたいと思う。

〔 A5 判 228 頁 3,000 円＋税 〕  
 三輪書店 刊  
 ☎ 03-3816-7796